

音楽高校における家庭科の実践報告

——「家庭基礎」年間指導計画を中心として——

森山 菜穂子

I. はじめに

本校は音楽高校として、全国から音楽家を目指して優秀な生徒が集まっており、個性豊かで自分を強く持っている生徒が多いと感じている。家庭科は、家庭基礎を1学年と3学年に各1単位ずつ履修する。2単位という少ない時間数で生徒の実態にあった授業が進められているか、生徒は興味関心を持てているか、日々迷いながら授業を行っている。

高校家庭科が男女共修になって10年以上が経った現在では、男女とも家庭科を学ぶことに疑問を持っていない。しかしながら、男性が仕事をし、女性は家庭を守るという性別役割分担意識を未だに持っていることに日本の昔ながらの伝統やしきたりの根深さを感じられる。

かつて家庭科は料理裁縫の色彩が強かったが、現在はジェンダー、消費生活、保育、住居など、その範囲は広い。大人になるために必要な自立（生活的・精神的・経済的）を実態に寄り添った生徒主体の活動的な授業を通して身に付けさせたい。以下、音楽高校における家庭基礎の授業内容を報告する。

II. 「家庭基礎」について

1. 授業目標

学習指導要領により、「家庭基礎」の目標は「人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。」と定められている。

本校では、調理実習や被服実習を通して基礎的な技術を学び、生徒同士の意見交換や自分の考えを述べる体験を通して、自分の生活を振り返り、見直す力を育てることを目標にしている。

2. 年間指導計画

「家庭基礎」の年間指導計画を以下に記し、下記の(1)～(15)についての実践報告をⅡ-3に明記する。

1 学年前期「食物」

<食生活をつくる>

- ・私たちの食生活…… (1)
- ・栄養の特質…… (2)
- ・食事摂取基準
- ・調理の基礎…… (3)
- ・調理実習 1回目…肉じゃが／2回目…回鍋肉／3回目…黒蜜添え白玉団子
- ・これからの食生活を考える…… (4)

1 学年後期「被服」

<衣生活をつくる>

- ・被服の役割を考える…… (5)
- ・衣生活の文化を知る…… (6)

- ・被服の材料…… (7)
- ・被服の管理…… (8)
- ・被服製作…… (9)
- ・被服の安全とデザイン…… (10)

3 学年前期 「家族・社会との共生」

<自分らしい人生をつくる>

- ・パートナーと生きる…… (11)
- ・自分らしく生きる…… (12)
- ・共に生きる社会…… (13)
- ・家族に関する法律…… (14)

<子どもと共に生きる>

- ・子どもの育つ力を知る
- ・親として共に育つ
- ・子どもの遊びと絵本製作
- ・子どもの権利と福祉…… (15)
- ・調理実習 (子どもが好きなおやつ「どらやき」)

3 学年後期 「住居」「消費生活」

<住生活をつくる>

- ・住居の機能と変化
- ・平面図を理解する
- ・住居の計画

<経済生活を営む>

- ・計画的に使う
- ・職業生活を設計する

3. 実践報告

(1) 私たちの食生活

本校には親元を離れ、一人暮らしの生徒もいるので、食生活の実態が生活の質に影響を及ぼしていることについて意識をさせることを目的とした。はじめに、食生活アンケートを行った<写真1>。これは例えば肉が大好きで野菜嫌いをマークすると、「野菜不足→ビタミン・食物繊維不足→便秘・肌荒れ」など食習慣から栄養、体調へとつながっている。アンケート用紙には自分の体調を表す似顔絵とコメント欄を作成したが、コンクール前の生徒は、「眠い、疲れた」と記入しており、睡眠時間を削って練習をしていることがわかった。本能のまま好きなものを好きなだけ食べると、体調をくずしたり、病気になったり、集中力を欠くため、食生活が大切であることを改めて気付かせる。

食事の傾向								栄養状況											生活習慣病などの可能性															
① 野菜が嫌い	② 肉食大好き	③ 清涼飲料よくのむ	④ カップ麺・スナック大好き	⑤ 食べすぎる	⑥ 加工食品大好き	⑦ タイエット食	⑧ 食事をめくことあり	a ビタミンC不足	b 食物繊維不足	c コレステロール高	d 動物性脂肪とりすぎ	e 糖分のとりすぎ	f ビタミンB不足	g オーバリー・食塩とりすぎ	h カロリ不足	i カルシウム不足	j 鉄分不足	k タンパク質不足	l 食事量不足	A よくかぜひく	B 便秘	C 動脈硬化	D 高脂血症	E 心臓病	F 胃腸病	G 脳卒中	H 糖尿病	I 高血圧症	J 肥満症	K 肌あれ	L 脚気	M 骨粗しょう症	N 貧血	O やせすぎ

<写真1> 食生活アンケート

(2) 栄養の特質

次に、五大栄養素と水の役割を学習する。特に伝えたいことは「栄養とはカロリーを摂ることではない」ということである。例えば、毎日ファーストフードや牛丼、ラーメンばかりを食べる偏食では、摂取カロリーは満たされていても栄養失調で倒れてしまう。生徒は、品質表示を知っていても原材料を見るのではなく、消費期限とカロリーにだけ注目していることが多いように思う。生徒によってはアレルギーがあるので、まずアレルギー表記の確認を必ずするという声もあった。カロリーではなく、食品に含まれる栄養内容が大事だということを伝えたい。体調がすぐれない場合は、何かしらの栄養素が足りていないことも考えられる。イライラするときは、カルシウム（牛乳・ヨーグルトなど）を摂ること、疲れやすいときは糖質が燃焼しきれていない可能性があるので、糖質の燃焼に必要なビタミン B1（豚肉に多く含まれる）を摂ること、口内炎や口唇炎などの口のトラブルにはビタミン B2（牛乳に多く含まれる）を摂ること。ストレスにはビタミン C（果物に多く含まれる）を摂ること、めまいには鉄分（ひじき、肉、大豆製品に多く含まれる）を摂ることなどを伝えている。

水は栄養素に含まないが、栄養素の運搬、体温調節や老廃物の運搬に役立つ。熱中症の予防や排便を良好にするためには水の力が必要である。排便について話をすると、生徒の関心はとても高い。「よい便は、バナナ 2 本分、色は黄色で、水に浮く」と話すと、「そんなの見たことない!」と生徒が発言する。便秘の生徒もいるので、排便を促すためには食事をしっかり摂ること、朝起きたらコップ一杯の水を飲むこと、適度な運動などが必要であることを指導している。また食物繊維を取ることも大切である。食物繊維には水溶性（海藻・果物など）のものと不溶性のもの（豆類・野菜類・いも類など）がある。水溶性のものは、コレステロール値を下げる働きをし、不溶性のものは便のかさを増し、便通を良くしたり、大腸がんの予防に役立つ。

そして、魚の栄養では DHA に触れる。DHA とは、魚に含まれる不飽和脂肪酸のドコサヘキサエン酸のことである。DHA は記憶伝達物質と似た働きをするので、記憶力が良くなり、頭がよくなるということだ。「魚を食べると頭が良くなる」という昔流行した歌があるが、皆でメロディーを口ずさむときれいに歌ってくれる。これは、音楽高校ならではの感心させられる。歌を通して「魚の脂質が体に良いので魚を食べよう」ということが印象深く残ってくれることを願っている。

(3) 調理の基礎と調理実習

調理実習を企画している 1 コマ前の授業は、包丁の扱い方と調理器具を用いての量り方について学習する。紙で作った包丁を一人 1 本ずつ持ち、包丁の正しい持ち方、運び方、まな板の上に包丁を正しく置く位置などの確認をする。包丁を持たない手（材料を押さえる方）の形にも注目させる。音楽家は手の怪我が特に怖いので、正しく持つことや真剣に取り組むことを伝える。また、調理器具の名前を知り、どんな時にそれを使用するのかを確認するとともに、計量スプーンや計量カップを用いての量り方を知る。

調理実習は 3 回行うが、50 分という短い時間で各班コンロが一台ずつしかないという限られた環境なので、1 品ずつしか作ることができない。それでも実習はとてもよく取り組んでいる。特に、切ったりまぜたりするのに熱中する生徒がおり、白玉粉で団子を作ったときなどは、ずっとこね続けている生徒がいたほどで、時間を忘れて熱中する姿に集中力の高さを感じた。同時に、たくさんこねた団子の方がなめらかでおいしく出来上がることがわかった。

1 回目の調理実習は、和食である肉じゃがを作った。かつおの出汁の取り方を知ると、「めんどくさい」、「インスタントだしのありがたさを知った」などの感想もあるが、なにより生徒は、かつおでとる出汁の香りの良さを感じていると思う。インスタントの出汁とかつお節でとった出汁の大きな違いは香りである。出汁をきちんととるとコクが出て風味が増すので、塩分が少なくてもおいしく食べることができ、減塩効果も期待できる。肉じゃがは、切って煮るだけなのでとても簡単にできることを知って生徒は驚いている。

2 回目の調理実習は、中国の四川料理である回鍋肉を作った。回す鍋の肉と書くが、回す鍋とは、一度肉や野菜をゆでた後、鍋に戻すという意味である。50 分の中で調理から試食まで行わなければならないので、手際の良さが求められ、特に準備が重要なポイントとなる。回鍋肉は下味をつけた肉と野菜をいったんゆでてから再び鍋に戻すので、ゆでる順番が重要になる。ゆでる順番は灰汁の比較的少ない野菜（キャベツ・パプリカ）が先で、

その後が肉である。授業の前から湯を沸かし、野菜をゆでた後のゆで汁を再利用して、肉をゆでるのも、時間短縮のためにはなくてはならない工夫である。回鍋肉の肉は豚バラを使い、下味をつけ、片栗粉をまぶした後、沸騰した湯の中で色が変わるまでゆでる。肉をゆでる理由は、余分な脂を落とし、合わせ調味料を加えてからの加熱時間をなるべく短縮するためである。下味をつけた肉をわざわざゆでるということに、生徒は半信半疑の様子であった。野菜と肉をゆでたら合わせ調味料をつくる。合わせ調味料の中に甜麵醬が入る。甜麵醬とは、中華調味料の甘味噌のことで、北京ダックに使う味噌として有名である。一方、四川料理特有の辛さを出す調味料は豆板醬である。豆板醬とは、トウガラシ味噌のことで、ソラマメ・唐辛子・塩を発酵させた辛い味噌で、中国の代表的な調味である。豆板醬は合わせ調味料に入れるのではなく、火をつける前にフライパンへ油を入れるのと同時に、ネギ、にんにく、ショウガとともに入れるのがポイントである。こげを防ぐのと香りを出すためである。よい香りがただよってきたらゆでた野菜と肉を入れ、合わせ調味料を鍋肌から回しかけてできあがりである。長い時間炒めているとまるで煮物になってしまうので注意する。肉と野菜にはすでに火が通っているので、強火で短時間炒めるのがコツである。今まで回鍋肉の素でしか作ったことがないという生徒もいて、「こんなに簡単に本格中華を作れるのか」と驚いていた。

3回目の調理実習は、白玉団子黒蜜添えを作った。白玉・黒蜜・寒天を手作りし、季節の果物（キウイ・桃・メロン）を切る作業がある。これも手際の良さが重要である。まずはじめに寒天を作る。寒天作りのポイントは、水に粉寒天を溶かし、火をつけて沸騰した状態で1分以上加熱することだ。充分に加熱しないと、寒天は固まらない。1分加熱したら器に入れて冷やすが、凝固温度が40度なので、すぐ固まることに生徒は驚いていた。生徒にとってゼリーは、冷蔵庫で冷やして食べるものであり、温かい状態で固まることは、意外だったようだ。ゼリーはゼラチンから作ることが多く、ゼラチンの原材料は動物の皮であり、寒天の原材料の「てんぐさ、おごのり」と異なる。ゼラチンと寒天とは、凝固温度も食感も異なることを説明する。次に、黒蜜を作る。黒砂糖・上白糖・水を火にかけ、溶けたらはちみつを加えて出来上がりである。次に、白玉をつくる。白玉粉に豆腐を入れて豆腐の水分のみで団子を作るのがポイントである。豆腐を使う理由は、豆腐は栄養価が高く、デザートでありながら栄養がとれるからである。沸騰した湯にこねたて、小さく丸めた白玉粉を入れる。白玉が浮き上がったら1分ほど加熱して氷水にとる。先述のとおり、生徒は一生懸命にこねるので、とてもなめらかでおいしく出来上がる。

授業では、人工調味料についても触れている。生徒にとって市販されている「〇〇の素」「〇〇出汁」は身近であり、まるで市販の出汁が木の実や土の中に埋まっているかのように感じているようだ。また、すでに市販の出汁やうまみ調味料に舌が慣れていて、かつおぶし出汁だけでは満足できなくなっている生徒もいるようである。人工調味料というと、グルタミン酸ナトリウムが有名である。昆布、椎茸、かつお節のうま味成分を原料に製造されているが、天然のものとはいえ、大量に摂取すると身体に異変が起こり顔がしびれたり、ひどい時には呼吸困難になったりすることもある。調味料は砂糖や塩のように入れすぎると食べられなくなるということはないが、味覚がおかしくなるので注意が必要である。濃い味に慣れきってしまう前に、もう一度出汁を見直していきたい。

(4) これからの食生活を考える

ここでは日本の食糧自給率の低さを知り、食べ物の大切さを改めて考える。

絵本『いのちをいただく みいちゃんがお肉になる日』を全員で一行読みをする。この絵本は、小さな頃から一緒に育った牛（みいちゃん）が精肉になる日、かわいがっていた牛との別れの辛さや精肉にしないと暮らしていくことができない現実と、精肉にすることを生業としている人がいることをわかりやすく描いた作品である。いつも多くの生き物から命をいただいて食事をしているということ生徒に実感してもらう。

ハンガーマップを用いて日本の食糧自給率について考える。世界には世界中の人が食べられるだけの食糧があるにもかかわらず、栄養失調で亡くなる子どもの数は5秒に1人である。日本の食糧自給率はカロリーベースで39%と先進国の中ではもっとも低い。世界中から様々な食べ物を輸入し、食べ物が豊富にあるが、その一方で食べきれずに食べ物を廃棄している量は輸入量の1/3にも及ぶ。そして、食品ロスは食品事業者（コンビニ弁当の廃棄・スーパーの食品売れ残り）よりも一般家庭の方が多という実態がある。なぜこのような無駄が起こっているのか、私たちができることは何かを考える。「スーパーの値引き商品を買う。」「本当に食べるのかを良く考えて

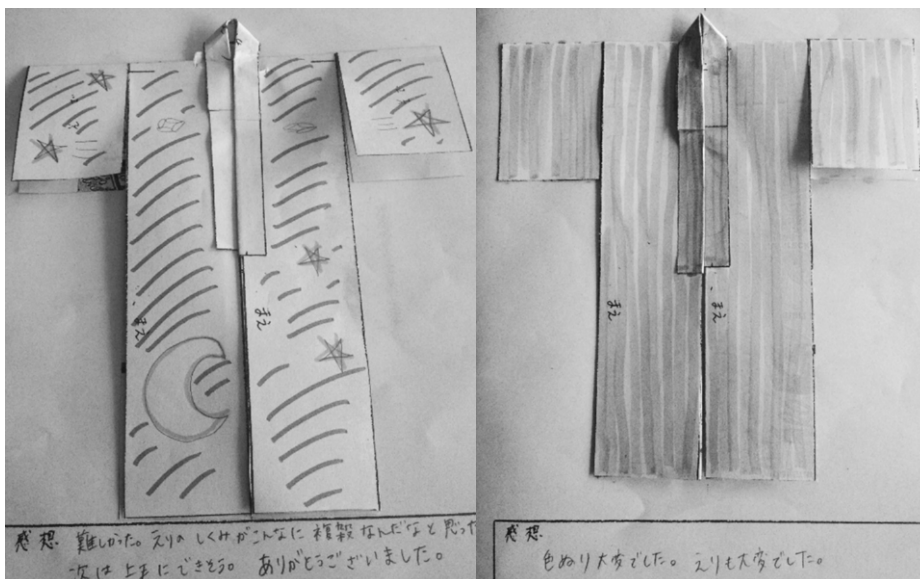
買い物をする。」「米を丁寧に、こぼさないようにとぐ。」「農家になる。」「冷蔵庫でものを腐らせない」などの意見が出た。一人一人が食べ物を大切にすれば、食品ロスを減らすことができるであろう。そして自給率100%の米をより多くの日本人が食べることで輸入穀物を減らせる。日本が輸入している分を貧しい国に与えることができれば、食糧がより多くの国に行き渡るようになるのではないか。それに加えて、地産地消についても触れる。地産地消とは、地元で生産された食糧をその地域で消費することをいう。生産地と消費地が近いことは環境にもやさしいことを知る。

(5) 被服の役割を考える

なぜ私たちは服を着るのか改めて考えてみる。例えば、「風邪をひいて病院に行くと、医者が水着姿であったら？」と聞くと、「コントかと思って信用できない。」「診てもらうのが嫌だ」という生徒の反応があった。服は暑さ寒さを防ぐだけではなく、白衣のように医者を医者らしく見せるという、職業を表す働きがあることを知る。被服の起源はさまざまあるが、気候や外敵から身を守るために服を着るとい、「身体保護説」、狩猟・採集の収穫物や武器を下げる腰ひもを発端とする「紐衣説」、悪霊から逃れるための「呪術説」、体を美しく見せるための「身体装飾説」、支配者層が地位を表現するための「特殊説」、集団の団結や敵を区別するための「集団性説」などがある。また、その土地の気候や風土において服装もさまざまである。日差しが強く高温で乾燥した地域サウジアラビアでは身を守るために全身を覆う長い丈のワンピースのような服を着ている。寒冷地域では、寒さから身を守るための開口部を極力少なくし、丈の長い毛皮でできたコートなどを着用している。

(6) 衣生活の文化を知る

日本の第一礼装である振り袖や黒留袖、紋付き袴についてを知り、浴衣の着こなし、和服の名称、日本の代表的な織物の名称を知る。また、染物の文様（麻の葉・市松模様・かなわぬ・青海波）をプリントに書いてみた。浴衣の着こなしで気を付けることは浴衣の襟の合わせ方である。左を上襟を重ねることを右前という。反対になる左前は死人の装束になるので注意が必要である。女性の襟足をきれいにみせるように襟を首の後ろでこぶし一つ分ほど後ろにすることを衣紋を抜くという。和服の構成をより理解するために、実寸の1/20の和服の平面図をプリントし、紙を切って実際に組み立てて色をぬった。襟の組み立てや衤などが、作業を進めながら分かっていくようである。〈写真2〉



〈写真2〉紙製作した浴衣（生徒作）

(7) 被服の材料

近年、被服材料は進化をとげており、ヒートテックやドライ・消臭・紫外線防止を売りにした被服製品が多く売られるようになってきている。なぜ体操着やジャージ・靴下が伸びやすく運動に優れているのかを構造から説明する。靴下が良く伸びる理由は、同じ100%の綿素材でも織物か編み物かで異なり、靴下は編み物の縦メリヤスである。YシャツとTシャツを比べてみる。素材は、両方綿100%であってもYシャツはぴったりとした着心地でTシャツは伸びやすく着やすい。なぜならYシャツは平織で、Tシャツは縦メリヤスという糸の織り方、編み方の違いがあるからである。

繊維製品は高度の技術を駆使した高機能繊維が開発され、特に、自己調節機能をもつ繊維としてテニスウェアやサッカーウェアに利用されている。これは吸水すると伸長し、放水（乾燥）すると収縮するポリエステル繊維で、汗を吸うと布に凹凸ができて空気が流れ込み、べとつき感が抑えられ、また布目が開いて通気性が増し、被服内の温度や湿度を下げることで不快感を減少させることができる繊維である。

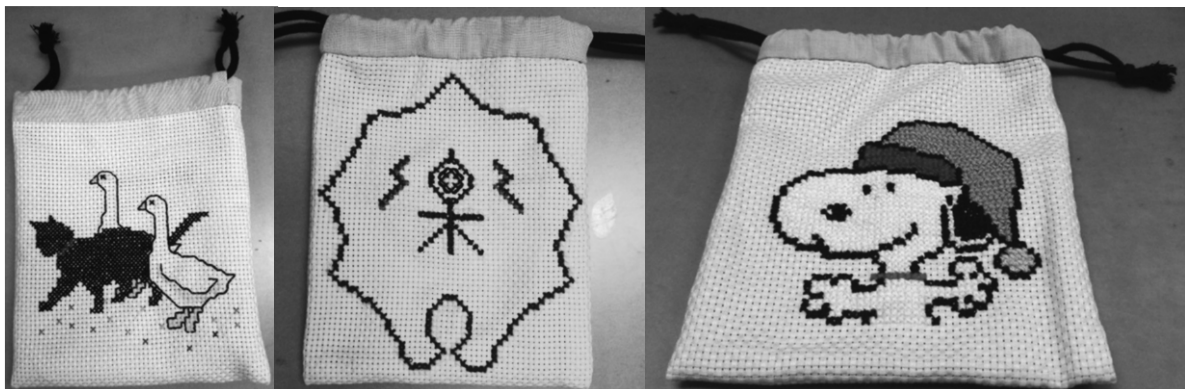
(8) 衣服の管理

日本工業規格 (JIS)・国際標準化機構 (ISO) に定められた表示について知る。衣服を購入する際は、デザインや色だけではなく、素材や取り扱い表示を必ず見て経済的で手入れのしやすい製品を買う大切さを知る。

洗剤を入れるとなぜ汚れがよく落ちるのか、それは洗剤には界面活性剤が40%入っており、界面活性剤の分子は親油基と親水基からなる。親油基が汚れの表面に集まり、浸透し、汚れを引き離す働きをする。さらに、再び汚れが繊維につかないように汚れを細かくする分散作用や再汚染防止作用もある。洗剤の種類も多く、最近は香りのついた商品や防臭効果を持つ商品が人気が高い。香りは人によっては不快感を与えることもあるので、ほどほどが適していることを学ぶ。洗剤は入れれば入れるほど汚れがよく落ちるというわけではなく、適量以上いれても汚れ落ちが変わらないことを知る。洗剤を入れすぎると濯ぎに時間がかかり、濯いでも洗剤が残ってしまうので水と電気の節約のために、適量の洗剤を使用することを知る。

(9) 被服製作

被服製作は、クロスステッチで好きな模様を刺繍し、小さな巾着袋を作った。まずクロスステッチとはどのような刺繍かを知ることにはじまり、布に刺繍糸で「×」を刺しながら模様を作るものであることを説明する。生徒には、画用紙に格子の線を大きく書き、穴をあけ、そこへ菜箸に毛糸をつけて1つ1つ穴に通しながらクロスステッチの「×」印のやり方を説明する。「×」の模様をつなげて刺繍をしていくのだが、「×」の重なる方向をそろえることが大切である。図案は一人一人自由なので個性豊かな作品が出来上がる。刺繍ができれば今度は裏布をつけて巾着を完成させる。裏布や表布をどのように縫い付けたら仕上がりが美しくなるか、試行錯誤しながら取り組んでいた。「まつり縫い」や、「なみ縫い」、「玉止め」などやり方を改めて習得する。最後に紐を通して出来上がるが、通した紐の両方を引っ張って口を閉めるやり方がなかなか理解できない生徒が多い。出来上がったからはじめて「こういうことだったのか」と納得し、達成感を味わっているようだ。〈写真3〉



〈写真3〉 クロスステッチ模様の巾着袋 (生徒作)

(10) 被服の安全とデザイン

理想のファッションを求めるあまり、健康を害していることはないかを考えてみる。1995～96年に流行したアムラー（安室奈美恵を模倣したファッションをする人）は肌を黒く焼いて、髪を茶色に染め、厚底のサンダルで渋谷の街を闊歩していた。厚底のサンダルは捻挫や骨折を起こす恐れがある。細いズボンは内臓を締め付け血流を悪くする。9世紀のフランス宮廷では、フランス皇帝ナポレオンの皇后ジョーセフィーヌをはじめとする女性たちは、みなギリシャ風のドレスを着ていた。薄地で腕を出すデザインだったため、寒さを防ぐことができず、肺炎で亡くなる人が大勢いたという。ピアスの害や金属アレルギーにも触れ健康な衣生活を見直す。

服装は、T（時間）P（場所）O（場合）を考えるとよい。それを考えさせるため、「①通学するのに適した服」「②デートに行くときに着たい服」を場面を自由に設定し生徒に書いてもらった。〈写真4〉



〈写真4〉 T・P・O に合わせた服装デザイン（生徒作）

(11) パートナーと生きる

自分は将来どんな人と結婚したいのかを入札方式で考えさせる。結婚相手はどんな人がよいか、ワークシートに記入させる。その結果から結婚に対する相手への期待度は男女で異なっているかを検証する。男性が結婚相手に期待することは何か。女性が結婚相手に期待することは何か、よりよい結婚生活を営むために必要なことは何かということを考えさせる。また、結婚の形態についても理解する。

このワークは、以下のような結婚の15項目の条件（A性格が良い B健康である C収入が良い D趣味が一致する E家事が上手 F顔、スタイルが良い G将来性がある H私の考えを理解してくれる I私を大切にしてくれる J一人っ子や長男でない K私の家族とうまくやっていける L子どもが好き、それに加えて生徒が新たに増やした項目は、Mタバコをすわない N私より背が高い O車を持っている）に決まった金額（100ドル）を使って入札するという仕組みになっている。条件項目を紙に記入し、入札箱に男女別に入札をする。名前を書いて入札することで、いい加減に書かないように工夫した。まず、結婚という言葉に生徒の反応や関心は予想外に高かった。男女関係なく将来は結婚してみたいと思っている生徒が多いと考えられる。ひとクラスに占める男子の割合は少なく、対象人数は10人程度だが、男子に人気の項目は「F顔スタイルが良い」「E家事が上手」「A性格が良い」であった。入札用紙に自分の名前を記入し、落札者になったら名前を全員の前で読み上げると言ったせいか、100ドル全額を「F顔スタイルが良い」に入れる生徒はいなかったが、男子はFの項目に人気が集まり、美人でスタイルのよい女性が結婚相手に求める大切な要素になっている傾向がみられた。その結果は、女子の反感をかっていた。男女ともに家庭科を学び、男性も女性も助け合って社会を生きる、男女共同参画社会を目指して授業をしている私としては、未だに男子生徒が結婚相手を選ぶ条件に、女性に家事を期待している点が

残念な結果といえる。一方、女子に人気のある項目は、「A性格が良い」「B健康である」「I私を大切にしてくれる」を上回って、「C収入が良い」であった。ある女子から「やっぱり金持ちだね。お金がないと何もできないし…」との発言があったので、それに影響されてしまったのかもしれない。金銭的に恵まれている家庭が多いのか、「お金の苦労なんて考えられない」という意見が多かった。女子の特徴として、「J一人っ子や長男でない」、が選ばれるのではないかと予想していたが、ほとんど票は入らなかった。少子化の影響でほとんどの生徒が1人っ子か長男なので、この項目はもはや選ばれない傾向になりつつあるように考えられる。男子の少数意見として、「収入が高い女子と結婚したい」と言っている生徒がいた。自分ひとりで家族を養っていく自信がないし、相手が稼げないより稼げた方が良いという考えであった。男性の未婚率は35歳から39歳において34.6%（総務省国勢調査2010年）である。18歳から34歳の未婚男性で、一生結婚するつもりがない男性は9.4%、いずれ結婚するつもりでいる男性は86.3%（国立社会保障・人口問題研究所「出生動向基本調査」2010年）である。結婚が難しくなっている理由として、収入や雇用形態が考えられる。自分の稼ぎだけでは妻子を養う自信がないという男子生徒の意見はこのような社会を反映している。

(12) 自分らしく生きる

社会的につくられた性別をジェンダーといい、生物学的な性別と区別して使う。ジェンダーは例えば、女性はおとなしく、おしとやかで気配りができ、家事が上手といったイメージ、男性はたくましく力持ちで、リーダーシップがあるなどである。しかし、実際は手先が器用で、優しく、デザイナーや有名料理人になっているも男性も多くいる。人を、男だから女だからと、性格まで決めつけしないで、その人らしさを認め合う社会であれば、我々はより生きやすくなるのではないか。家事労働や職業労働のそれぞれが、男性だから女性だからというのではなく、やりたいことを我慢せずにできる社会になるために、個性を認め合う大切さを知らせたい。本校は、生徒一人一人が個性的で、他人に左右されない性質があるが、一方で、「サザエさん」や「ちびまる子ちゃん」に出てくるような、母親は専業主婦で、料理や洗濯など家事一切を担当し、父親が働いてお金を稼ぐというスタイルがしっくりくるようで、保育園に入っている赤ちゃんや学童保育に通う小学生のことをかわいそうだと言う生徒もいる。3歳児神話と言って3歳までは母親が育児をした方がいいという言い伝えがあるが、実際は3歳まで母親が専業主婦だった場合と、母親が働いていて保育園で育った子どもを比べても心身の発達に違いはないという。子育ては3歳までではないし、かわいそうであると感じることが、働きながらの子育てを難しくしていると考ええる。授業を終えても生徒の意見があまり変わらないところに力不足を感じる。

(13) 共に生きる家族

15年後の家族を考える。生徒が15年後33歳になったとき、15年前3歳だったとき、そして現在、自分の家族はどのように変化しているかを書く。家族は永遠ではなく、一般的に大学卒業時に親元を離れて1人暮らしをする人が多いので、多くの生徒が家族と一緒に暮らすのもあと4年くらいであるといえる。家族とは何か、一緒に暮らしていれば血がつながってなくても、また、ペットも家族と考える生徒が多くいた。仲の良い友達同士で暮らしたいという意見もあがった。今の家族は自分で選ぶことができずにいるが、これから親元を離れ、自分の人生を自分の足で歩いていくとき、自分で好きなように家族を作っていける。自分は将来結婚したいのか、誰と何処で住みたいのか、子どもは何人くらい欲しいのかなど将来を想像してみる。しかし誰でも子どもを持てるわけではない。新婚カップルのうち2年以内に子どもを授からない（不妊）カップルは5組に1組といわれている。必ず親になれるとも限らないので子どものいる人生とない人生とを考えさせる。子どもに関して特に女性は出産に適した年齢があることにも触れる。著名人や芸能人が45歳過ぎて子どもが産んだニュースを見て自分も40代になっても子どもを産むことができている生徒が多い。出産は35歳までが望ましく、卵子が劣化するなどの理由で、高齢になると子どもを授かりにくくなる。そう考えていくと女性は子どもを産むことにタイムリミットがあり、子どもを産むためには、さかのぼって、何歳くらいで将来の夫と出会わなくてはならないのか、理想の子どもの数を産むために、何歳くらいから子どもを産みはじめる方が良いのか、具体的に考えるようになるようである。

(14) 家族に関する法律

法律では家族の範囲はどのように決められているのか。結婚年齢や相続、扶養や未成年者が仕事をするときには親の同意があるのかなどを「〇×クイズ形式」で学ぶ。以下クイズの一例を示す。

- () さとみは16歳で親が反対しても結婚することができる。
- () さくらは1週間前に離婚した。今つきあっている人とすぐに結婚することができる。() ゆうたはいとこのかおりと結婚することができる。
- () のりかもあさみも両方好きなので二人と結婚することができる。

日本では男性18歳、女性16歳で婚姻できるが、未成年者の婚姻は親の同意が必要である。諸外国では、法律で定められている未成年の男女の年齢差はほとんどの国で定められていない。日本の法律で定められている、この2歳差はどんな意味があるのか考えていくと、時代に合ってはならず、男女とも18歳になるよう改正案が出ており、現在も議論中である。日本では、女性のみ再婚禁止期間があり、離婚から次の結婚まで6か月間を過ぎなければならなかったが、平成28年6月1日民法の一部が改正され、再婚禁止期間が100日に短縮された。結婚の条件は「男性18歳、女性16歳以上であること」、「重婚でないこと」、「直系血族でないこと」、「3親等内の血族でないこと」、である。いとは4親等になるのでもと同士は婚姻することができる。民法の改正案で夫婦別姓が論議されている。選択制夫婦別姓は苗字が違くと家族が混乱するとか、家族の絆が失われるといった意見もあるようだが、結婚しても自分の姓で仕事をしたいと考える女性も多い。また、姓を変えることが結婚の障害になっている1人っ子同士のカップルもいる。「一人一人の考えを尊重し、生きやすい世の中にするには夫婦別姓も認められるべきである」という意見と「結婚したという実感が欲しいから苗字を変えたい」、「家族で別々の苗字になることは、日本の社会にふさわしくない」などの意見が生徒から出たが、全体的には夫婦別姓への反対意見の方が多かった。相続に関する法律が平成25年に新しくなり、婚外子も婚内子も相続は同等になった。今までは夫が亡くなった場合、遺産は妻が1/2、子が1/2を均等に相続し、婚外子は婚内子の1/2であった。もっと古い明治民法では遺産は跡取り（通常は長男）だけが相続していた。相続や跡取りについては、ドラマの中の話であって自分には関係ないといった関心の低さを感じた。

(15) 子どもの権利と福祉

プリント「世界の子どもたちを知ろう」を使用し、世界には様々な子どもたちがいて、気候や暮らしぶりが異なっている、それらの環境にうまく適応しながら毎日の生活を送っていることを学ぶ。これは、世界の子どもたちの様子を知り、それぞれの食生活や食文化を知るきっかけにすることを目的としている。世界地図用意し、位置を確認しながら、クイズ方式で進めていく。以下はクイズの一部である。

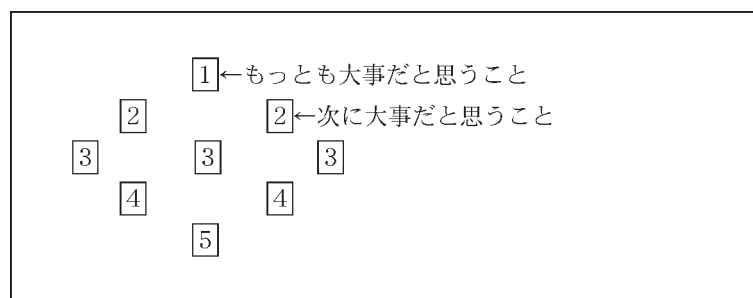
タデセイは9歳。エチオピアの首都アディスアベベに住んでいるよ。父さんは亡くなって、母さんも体が弱いために、タデセイは5歳から孤児院で暮らしているんだ。ここには飢餓で親を亡くした子どもたちもいるよ。タデセイが食べている物は「シヨルバ」というジャガイモ、エンドウマメ、レンズマメのスープと「ダボ」というパンを食べるよ。孤児院には農場や食品加工所があり必要なものを栽培しているよ。

この文章を読み世界地図でエチオピアを見つけ、ハンガーマップを見せる。世界には栄養失調で亡くなる子どもも多く、どうしたらこの状況が改善できるのか考える。プリントの文章にならって今度は日本の紹介文を書く。以下はある生徒が考えた日本を紹介する文章である。

太郎は9歳、日本の首都東京に住んでいるよ。寿司といって米に生魚をのせて食べる料理や納豆といって大豆を発酵させた料理があるよ。

花子は10歳、小学4年生だよ。ピアノという鍵盤をたたくと音が出る楽器が好きで毎日弾いているよ。好きな食べ物は、ラーメンだよ。小麦粉でできた細いめんに熱い汁をかけて食べる料理だよ。

人間らしく育つとはどういうことであろうか。日本の子どもたちにとって一番大切なこと(項目は、自由/友達/お金/愛情/健康安全/平和/安心な住まい/遊び/その他)は何かをダイヤモンドランキングにし、〈図1〉なぜそれを選んだか理由も書く。その他の項目に「家族」、「趣味」、「時間」などもあがり、一人一人異なるダイヤモンドランキングが完成した。そして、生徒に黒板に書いて発表してもらい、クラスで共有した。生徒には、もっとも大事だと思うことに選んだ項目とその理由を聞く。例えば1位の項目に「平和」を選んだ生徒は、「平和でなければ何もできず、戦争中は、生きることに精いっぱいになってしまうから」という意見であった。また1位に「愛情」を選んだ生徒は、「愛情はすべての基本であり、成長に欠かせない」と考えていた。その背景には、お金はなくても愛は十分に与えることができる、愛情があれば、安心して勉強や運動をがんばれるからという思いがあったようである。



〈図1〉ダイヤモンドランキング

III. おわりに

IoT 社会の到来によりますます自分の頭で考えて行動することが必要になると感じる。様々な考え方は、知識だけではなく今までの経験や豊かな体験が関係していくので、生徒の持っている引き出しを増やすような家庭科の授業になればと考えている。

音楽高校の家庭科は、毎日何時間も楽器の練習をしている生徒にとって、クラスのみんなと一緒に受けられる楽しい授業でありたいと思う。受け身より能動的な授業の方が生徒は楽しそうである。実習は、準備や片付けが大変ではあるが、生徒のやる気をみると頑張れる。今後もできる限り、実習の多い授業を目指していく。

参考文献

- ・人間の発達と保育、牧野カツコ著、東京書籍株式会社、2002/5/20
- ・家庭科ワークブック 牧野カツコ編著、株式会社国土社、1998/7/20 4刷発行

引用文献

- ・家庭基礎 自立・共生・創造 牧野カツコ・河野公子ほか18名 2016/2/10発行
- ・高等学校学習指導要項解説家庭編 文部科学省 2010